

患者 16 様、そしてご家族の皆様、こんにちは。ケアマネジャーの〇〇です。

定期カンファレンスでの皆様からの貴重なご意見、本当にありがとうございました。医師からの指示を踏まえ、患者 16 様が安心して、そして快適に毎日を過ごせるよう、今週のケアプランをまとめました。

今年は例年よりも早い梅雨入りとなり、体調を崩しやすい時期ですので、体調管理には特に注意が必要です。

## 今週のケアプラン

### 1. 目標

- **最優先:** 患者 16 様の QOL（生活の質）の維持・向上。笑顔で過ごせる時間を増やし、できる限りご自身の力でできることを増やしていきましょう。
- 心不全、骨粗しょう症、パーキンソン病の進行を緩やかにし、合併症を予防します。
- ADL（日常生活動作）と認知機能の維持、改善を目指します。
- 食欲不振と便秘の改善に取り組み、栄養状態を改善します。
- 頻尿による不快感を軽減し、安心して生活できるよう支援します。

### 2. 具体的なケア内容

- **看護:**
  - 毎日のバイタルチェック（血圧、心拍数、体温、呼吸状態）で体調の変化を早期に発見します。
  - 心不全の兆候（むくみ、息切れ、体重増加）を注意深く観察し、早期対応します。
  - お薬の飲み忘れがないよう、服薬管理を徹底します。
  - 皮膚の状態を観察し、褥瘡（床ずれ）予防のための体位変換やスキンケアを行います。
  - 排尿回数や時間、量を記録し、頻尿の原因を特定するための情報収集を行います。
  - 食事の摂取量や食事の様子（むせ込み、嚥下困難など）を記録し、食欲不振の原因を把握します。
  - 必要に応じて、嚥下機能評価を行い、安全に食事ができる食事形態を検討します。
- **介護:**
  - 食事、更衣、排泄、入浴などの日常生活動作を、できる限りご自身の力でできるよう支援します。
  - 転倒しやすい場所の整理整頓、手すりの設置、滑り止めマットの使用など、転倒予防対策を徹底します。
  - 食欲不振がある場合は、食事の形態を工夫したり、声かけをしたりするなど、食事摂取を促します。
    - 旬の食材を取り入れ、彩り豊かで食欲をそそる食事を提供します。
    - 梅雨時期は食中毒にも注意し、衛生管理を徹底します。
  - 食前後の口腔ケアを丁寧に行い、お口の中を清潔に保ちます。
  - 頻尿がある場合は、トイレ誘導をこまめに行い、転倒予防に努めます。
  - 積極的にコミュニケーションを取り、不安な気持ちに寄り添い、精神的なサポートを行います。
  - 日々の ADL の状況、食事摂取量、排泄状況、精神状態などを詳細に記録し、多職種と情報共有します。
- **リハビリ:**
  - 運動機能、認知機能、ADLなどを詳細に評価し、個別リハビリテーションプログラムを作成します。
  - 筋力トレーニング、バランス訓練、歩行訓練、ADL 訓練などを実施し、ADL の維持・向上を目指します。
  - 必要に応じて、福祉用具の導入や住宅改修を検討し、安全で自立した生活を支援します。
  - ご家族への介護方法や生活上の注意点などを指導し、在宅での介護をサポートします。

- 患者 16 様の意欲を高められるように、目標設定やリハビリ内容を工夫します。
  - 梅雨の晴れ間には、可能な範囲で屋外でのリハビリを取り入れ、気分転換を図ります。

#### ● ケアマネジメント:

- 医師、看護師、リハビリ専門職、介護士など、多職種と密に連携し、情報を共有しながら、患者 16 様にとって最適なケアを提供します。
- 定期的に患者 16 様の状態をモニタリングし、必要に応じてケアプランを見直します。
- ご家族とのコミュニケーションを密にし、介護に関する相談や情報提供を行います。
  - 介護に関する不安や疑問に丁寧にお答えします。
  - 地域の介護サービスや制度に関する情報を提供します。
- 地域の社会資源を活用し、患者 16 様の生活を支援します。
- 定期的にサービス担当者会議を開催し、情報共有や課題の検討を行います。

### 3. その他

- 医師の指示に基づき、薬剤の調整や検査を行います。
- 手洗い、うがい、マスク着用などの感染症対策を徹底します。
- 緊急時には、速やかに医師や救急隊に連絡します。
- 患者 16 様の意思を尊重し、尊厳を保った介護を提供します。

### 4. 今後の予定

- 定期的なカンファレンスを開催し、患者 16 様の状態の変化やケアの進捗状況を共有し、今後のケア方針を検討します。
- 必要に応じて、ご家族にも参加を呼びかけ、意見交換を行います。

今回のケアプランは、現時点での情報に基づいたものです。患者 16 様の状態は常に変化するため、定期的な評価と多職種連携による柔軟な対応が不可欠です。何かご心配なことやご要望がありましたら、遠慮なくお申し付けください。

私を含め、関係者一同、患者 16 様が安心して毎日を過ごせるよう、全力でサポートさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

**患者 ID: 患者 16 様 今週のケア方針（看護師向け）**

作成日: 2025 年 5 月 17 日

状況:

- 季節: 5 月中旬、日中は気温が上がりやすい。
- 本日: 定期カンファレンスにて、患者様の状態に関する情報共有を実施。医師からの総合指示あり。

今週の目標:

医師の指示に基づき、患者様の QOL 維持・向上、合併症予防、ADL および認知機能の維持・改善、栄養状態の改善、排泄ケアの改善を目指します。特に、下記項目に重点を置きます。

- 心不全症状の早期発見と悪化予防
- 転倒リスクの軽減
- 食欲不振と便秘の緩和
- 頻尿による QOL 低下の軽減

具体的なケア内容:

#### 1. バイタルサインモニタリング:

- 毎日朝・夕 2 回、血圧、心拍数、体温、呼吸状態をチェックし、記録。
- 特に、血圧変動（急な上昇・下降）、不整脈、呼吸困難の兆候に注意。
- 異常値や変化が見られた場合は、速やかに医師に報告。

## 2. 心不全の観察:

- 毎日、下肢や顔面の浮腫、呼吸困難（特に夜間や臥床時）、体重増加の有無を確認。
- 浮腫の程度や範囲、呼吸困難の程度（会話の可否、呼吸回数など）を具体的に記録。
- 心不全の悪化が疑われる場合は、SpO<sub>2</sub>測定を行い、医師に報告。

## 3. 服薬管理:

- 毎食後、抗血小板薬、カルシウム製剤の服薬状況を確認。
- 飲み忘れがないよう、声かけや服薬カレンダーを活用。
- 服薬後の副作用（消化器症状、出血傾向など）の有無を観察。
- 内服薬に関する疑問や不安があれば、医師や薬剤師に確認。

## 4. 皮膚状態の観察:

- 毎日、仙骨部、踵、大転子部などの骨突出部位を中心に、皮膚の発赤、びらん、水疱の有無を確認。
- 褥瘡リスクが高い場合は、2時間ごとの体位変換を実施。
- 清拭時には、保湿剤を使用し、皮膚の乾燥を防ぐ。
- 必要に応じて、エアマットや体圧分散マットレスを使用。

## 5. 頻尿の観察:

- 排尿回数、時間、量、尿の性状（色、混濁、臭い）を記録。
- 夜間頻尿の回数や、睡眠への影響についても記録。
- 排尿時の痛みや残尿感の有無を確認。
- 水分摂取量や時間帯について、医師や栄養士と相談し、必要に応じて調整。
- トイレ誘導はこまめに行い、転倒予防に努める。

## 6. 食欲不振の観察:

- 毎食後、食事摂取量（全量、半分、少量など）を記録。
- 食事中の様子（むせ込み、嚥下困難、食事時間など）を観察し、記録。
- 食事の形態（刻み食、ミキサー食など）や味付けについて、医師や栄養士と相談。
- 食欲不振の原因（便秘、口腔内の問題、精神的な要因など）を探り、対応を検討。

## 7. 嚥下機能評価:

- 食事中のむせ込みや、咳込みが見られる場合は、医師に報告し、嚥下機能評価の必要性を相談。
- 評価結果に基づき、適切な食事形態や介助方法を検討。

## 8. 転倒予防:

- ベッドからの離床時、トイレへの移動時など、転倒しやすい場面での声かけと見守りを徹底。
- ベッドの高さを調整し、足が床にしっかりと着くようにする。
- 杖や歩行器の使用を促し、安全な歩行を支援。
- 居室内の整理整頓を行い、つまづきやすい物を除去。
- 夜間は、足元灯を点灯し、視認性を確保。

## 9. 季節への配慮

- \* 室温・湿度管理：室温は25～28℃を目安に、湿度を40～60%に保ち、快適な環境を維持する。
- \* 脱水予防：こまめな水分補給を促し、脱水症状を防ぐ。特に、入浴後や運動後は積極的に水分を摂るように促す。
- \* 衣類調整：通気性の良い素材の衣類を選び、必要に応じて着替えを促す。
- \* 熱中症対策：日中の暑い時間帯の外出は避け、室内での活動を推奨する。外出時は、帽子や日傘を使用し、日焼け止めを塗布する。

## 10. コミュニケーション:

- 患者様の訴えに耳を傾け、不安や苦痛を軽減できるよう努める。
- 積極的に声かけを行い、精神的なサポートを行う。
- ADL の状況、食事摂取量、排泄状況、精神状態などを詳細に記録し、多職種と情報共有する。

### その他:

- 緊急時には、速やかに医師に連絡する。
- 患者様の意思を尊重し、尊厳を保った介護を提供する。
- 不明な点や疑問があれば、遠慮なく医師や先輩看護師に相談する。

### 次のカンファレンスに向けて:

- 今週のケア内容の効果や課題を評価し、次のカンファレンスで報告する。
- 患者様の状態の変化や、新たなニーズがあれば、事前に情報収集し、カンファレンスで共有する。

### 留意点:

- 本ケア方針は、現時点での情報に基づいたものです。患者様の状態は常に変化するため、柔軟に対応してください。
- 多職種と連携し、患者様にとって最善のケアを提供できるよう努めてください。

患者 ID: 患者 16 様、今週のケア方針について、医師の指示と皆様からの意見を基に、以下のようにまとめました。季節と患者様の状態を考慮し、楽しんでいただけるような内容も盛り込んでいます。

### 今週のケア方針

#### 1. 全体目標

- QOL（生活の質）の維持・向上: ADL の維持・向上、痛みや不快感の緩和、精神的なサポートによる意欲の維持を目指します。
- 合併症の予防: 心不全の悪化、転倒による骨折、感染症の予防に努めます。

#### 2. 具体的なケア内容

##### ● 看護

- バイタルチェック: 毎日の血圧、心拍数、体温、呼吸状態の確認と記録。異常があれば医師に報告。
- 心不全の観察: 浮腫、呼吸困難、体重増加の有無を観察。
- 服薬管理: 抗血小板薬、カルシウム製剤の服薬状況を確認。
- 皮膚状態の観察: 褥瘡予防のための体位変換とスキンケア。
- 頻尿の観察: 排尿回数、時間、量の記録。
- 食欲不振の観察: 食事摂取量、食事の様子（むせ込み、嚥下困難など）の記録。

##### ● 介護

- ADL 介助: 食事、更衣、排泄、入浴の介助。できる限り自立を促します。
- 転倒予防: 居室内の整理整頓、手すりの活用、滑り止めマットの使用。
- 食事介助:
  - 食欲を刺激するため、旬の食材を取り入れたメニューを提供します。
  - 食事の形態を工夫し、食べやすいように配慮します。
  - 声かけや励ましで食事摂取を促します。
- 口腔ケア: 食前後の丁寧な口腔ケア。
- 排泄介助: 頻尿に対するトイレ誘導。
- コミュニケーション:
  - 積極的にコミュニケーションを取り、精神的なサポートを行います。

- 不安や BPSD（行動・心理症状）が見られる場合は、原因をアセスメントし、適切な対応（声かけ、環境調整、気分転換の提案など）を行います。
- RAG 知識ベースより：** 利用者の精神的な健康状態に関する情報（気分の変動、BPSD の頻度や状況、対応への反応など）を、医師や看護師と密に共有することは、医学的な診断や治療方針の決定、そしてケアプランの調整において非常に重要です。
- 記録：ADL、食事摂取量、排泄状況、精神状態の詳細な記録。
- リハビリ**
  - 個別リハビリ：
    - 筋力トレーニング、バランス訓練、歩行訓練、ADL 訓練を実施し、ADL の維持・向上を目指します。
  - 環境調整：
    - 必要に応じて、福祉用具の導入や住宅改修を検討し、安全で自立した生活を支援します。
  - 意欲向上：目標設定やリハビリ内容を工夫し、患者様の意欲を高めます。
- ケアマネジメント**
  - 多職種連携：医師、看護師、リハビリ専門職、介護士と密に連携し、情報共有。
  - ケアプランの見直し：定期的なモニタリングと必要に応じたケアプランの見直し。
  - 家族との連携：介護に関する相談や情報提供。
  - 社会資源の活用：地域の社会資源を活用し、生活を支援。

### 3. 今週のイベント・レクリエーション

季節を考慮し、患者様が楽しめるような企画を取り入れます。

- 5月19日（月）：**
  - 午前：園芸療法。プランターに季節の花（ペゴニア、マリーゴールドなど）を植えます。土に触れることでリラックス効果も期待できます。
  - 午後：音楽療法。懐かしい童謡や唱歌を歌い、思い出を語り合います。
- 5月22日（木）：**
  - 午前：回想法。昔の写真や物を見ながら、思い出を語り合います。パーキンソン病の症状緩和にも効果が期待できます。
  - 午後：おやつ作り。簡単な和菓子（おはぎ、きなこ餅など）を一緒に作ります。

### 4. 留意事項

- 患者様の状態は常に変化するため、上記ケア内容は柔軟に対応します。
- 各専門職は、それぞれの専門性を活かし、患者様にとって最善のケアを提供できるよう努めます。
- RAG 知識ベースより：** 不安や BPSD（行動・心理症状）が見られる利用者に対しては、まずその原因（身体的な不調、環境の変化、過去の経験、満たされないニーズなど）を多角的にアセスメントすることが重要です。
- 何かご不明な点やご意見がありましたら、遠慮なくお申し出ください。

### 5. 今後のカンファレンス

- 定期的なカンファレンスを開催し、患者様の状態の変化やケアの進捗状況を共有し、今後のケア方針を検討します。
- 必要に応じて、ご家族にも参加を呼びかけ、意見交換を行います。

上記内容で、今週のケアを進めてまいります。患者様が笑顔で過ごせるよう、スタッフ一同協力して取り組んでいきたいと思います。

患者 ID：患者 16 様、承知いたしました。医師の指示とカンファレンスでの意見をふまえ、今週のケア方針を以

下の通りまとめます。5月という季節を考慮し、より具体的な内容としました。

## 今週の看護ケア方針（2025年5月17日～5月23日）

### 1. 全体目標

- 患者様の QOL（生活の質）維持・向上を目指し、安全で快適な生活を支援します。
- 心不全、骨粗しょう症、パーキンソン病の悪化予防に努めます。
- 多職種と連携し、患者様にとって最善のケアを提供します。

### 2. 看護目標

#### 1. バイタルサインの安定と全身状態の観察

- 血圧、脈拍、呼吸、体温を毎日朝夕 2 回測定し、記録します。
- SpO<sub>2</sub>（経皮的酸素飽和度）も測定し、呼吸状態の変化に注意します。
- 浮腫の有無、程度を毎日観察し、記録します（特に下肢、顔面）。
- 体重を週 2 回測定し、急激な増加がないか確認します。

#### 2. 心不全症状の早期発見と対応

- 呼吸困難、息切れ、咳嗽の有無、程度を観察し、記録します。
- 夜間頻尿の回数、排尿量を記録します。
- 医師の指示に基づき、利尿剤の投与状況を確認し、効果と副作用を観察します。
- 心不全増悪の兆候（呼吸苦、浮腫の増悪、体重増加など）が見られた場合は、速やかに医師に報告します。

#### 3. 服薬管理の徹底

- 抗血小板薬、カルシウム製剤など、処方された薬を確実に服用できるよう、服薬カレンダーや声かけを活用します。
- 服薬後の副作用（出血傾向、消化器症状など）の有無を観察し、記録します。

#### 4. 褥瘡予防とスキンケア

- 褥瘡リスクアセスメント（ブレーデンスケールなど）を週 1 回実施し、リスクに応じたケアを行います。
- 体圧分散マットレスを使用し、2 時間ごとの体位変換を実施します。
- 皮膚の乾燥を防ぐため、保湿剤を塗布します。
- 皮膚に発赤、びらんなどが見られた場合は、適切な処置を行い、医師に報告します。

#### 5. 頻尿への対応

- 排尿パターン（時間、量、回数）を記録し、頻尿の原因を特定するため情報を集めます。
- トイレ誘導をこまめに行い、転倒予防に努めます。
- 夜間の転倒防止のため、ポータブルトイレを設置します。

#### 6. 食欲不振への対応

- 食事摂取量、食事の様子（むせ込み、嚥下困難など）を観察し、記録します。
- 患者様の好みを考慮した食事を提供します。
- 必要に応じて、栄養補助食品（ゼリー、ドリンクなど）を活用します。
- 口腔ケアを食前・食後に行い、口腔内を清潔に保ち、食欲を増進させます。

#### 7. 嚥下機能の評価と食事介助

- 必要に応じて、言語聴覚士による嚥下機能評価を依頼します。
- 食事形態（刻み食、ペースト食など）を工夫し、安全に食事ができるよう介助します。
- 食事中は姿勢を保ち、一口量を少量にし、ゆっくりと摂取できるよう促します。
- むせ込みが見られた場合は、直ちに食事を中止し、医師に報告します。

## 8. 精神的なサポート

- 患者様の訴えに耳を傾け、不安や孤独感の軽減に努めます。
- 趣味や好きな活動を促し、意欲の向上を図ります（例：音楽鑑賞、回想法など）。
- 必要に応じて、臨床心理士や精神科医への相談を検討します。

## 9. リハビリテーションのサポート

- 理学療法士、作業療法士と連携し、リハビリテーションの進捗状況を把握します。
- リハビリテーションの効果を高めるため、日常生活の中でできる運動を促します（例：ベッド上での足上げ運動、座位での体幹運動など）。

## 3. 観察項目

- バイタルサイン（血圧、脈拍、呼吸、体温、SpO2）
- 心不全症状（呼吸困難、浮腫、体重増加、夜間頻尿）
- 服薬状況と副作用
- 皮膚状態（褥瘡、発赤、乾燥）
- 排尿状況（回数、量、性状）
- 食事摂取量、食事の様子
- 精神状態（表情、言動、意欲）
- リハビリテーションの進捗状況
- 転倒リスク

## 4. 具体的なケア

- 毎日のバイタルサイン測定、心不全症状の観察、服薬管理、スキンケア、口腔ケアを実施します。
- 2時間ごとの体位変換、体圧分散マットレスの使用により、褥瘡を予防します。
- 食事介助、トイレ誘導を適切に行い、自立を促します。
- 患者様の訴えに耳を傾け、精神的なサポートを行います。
- リハビリテーションの継続を促し、ADLの維持・向上を支援します。
- 週1回、多職種カンファレンスに参加し、情報共有と連携を行います。

## 5. 季節への配慮（5月）

- 日中は気温が上昇するため、室温を適切に調整し、こまめな水分補給を促します。
- 紫外線対策として、日焼け止めクリームを使用し、帽子を着用します。
- 5月病（意欲低下、疲労感）に注意し、患者様の精神状態を観察します。

## 6. その他

- 緊急時には、速やかに医師に連絡します。
- 患者様やご家族の意向を尊重し、倫理的な配慮をもってケアを提供します。
- ケアの実施状況、患者様の状態変化は、看護記録に詳細に記録します。

## 7. 評価

- 週ごとの目標達成度を評価し、必要に応じてケアプランを見直します。
- 患者様やご家族からのフィードバックを参考に、ケアの質を改善します。

上記ケア方針に基づき、今週も患者様が安心して過ごせるよう、チーム一丸となって努めてまいります。何かご不明な点やご意見がありましたら、いつでもお声かけください。